

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク



# 2026 年度事業計画書

2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

## 目次

2025 年度 事業計画にあたって .....	2
(予定事業一覧)	
組織基盤強化事業.....	4
NPO 等団体活動支援事業 .....	4
情報発信支援事業.....	5
たんたんフードバンク事業.....	6
孤立・孤独者への対策 .....	7
多文化共生とまちづくり.....	9
防災支援及びモデル避難所拠点づくり事業 .....	10
組織概要.....	12

# 2026年度 事業計画にあたって

---

## 1. 2026年度 基本方針

2010年の設立から15年、当法人は「ネットワーク構築」「人づくり」「地域デザイン」を軸に、京都丹波・丹後地域の活性化に邁進してまいりました。

2026年度は、長引く物価高騰や社会構造の変化により、制度の狭間で孤立する人々への支援がますます重要となっています。私たちはこれまでの活動で築いた株式会社さとう様、おてらおやつくらぶ様、行政、福祉機関等との強固な連携を基盤に、単なる「支援」に留まらない、誰もが役割を持ち支え合える\*\*「共生・共創のまちづくり」\*\*を推進します。

また、中間支援組織としての機能を地域福祉の現場で最大化させ、多様な主体と共に新たな社会的価値を創出していくことを本年度の基本方針といたします。

---

## 2. 2026年度スローガン

「支援から共生、共生から共創へ」～15年の絆を礎に、誰もが主役になれる未来を共に創る～

---

## 3. 2026年度 重点項目

### ① 組織基盤の深化とハブ機能の強化

- 地域のハブ(結節点)としての役割強化: 多様なセクターを繋ぎ、地域課題を迅速に解決するネットワークを構築。
- 次世代の人材育成: 複雑化する社会課題に対応できる、専門性と柔軟性を備えた人材のスキルアップ。

### ② 未来のまちづくり支援(具体的事業)

- 「たんたんマッチングバンク」への進化：食糧支援に加え、生活用品・文房具・本など支援の幅を拡大。当事者ニーズと地域の余剰資源を最適に結びつけるプラットフォームへと発展させます。
- 多文化共生から「多文化共創」へ：福知山市との連携事業の成果を継承し、外国籍住民が地域の一員として共に活躍できる環境を整備。より質の高い伴走支援を実施します。
- 生成AI等ICTを活用した強靱な防災ネットワーク：避難所システム構築事業等の知見を活かし、生成AI等 ICT と地域コミュニティを融合させた「誰一人取り残さない防災」を継続。
- 孤独・孤立を防ぐ「多様な居場所」づくり：外国にルーツを持つ親子、高齢者、単身世帯など、孤立しがちな人々が安心して集える多角的な居場所運営を推進。
- 「たんたん X 交差点」の本格展開：地域を学び、多様な主体が共に行動へ移すための「まちづくり講座」を、新たな地域デザインの起点として定着させます。

## ①組織基盤強化事業

---

具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化に取り組むため、中期ビジョン・単年度計画に沿って、活動の持続発展、社会課題の解決促進、社会変革に向け、誰もが生き生きとくらす共生社会を目指す。

## ②NPO 等団体活動支援事業

---

NPO等支援(NPO 法人、自治会、市町村等)

⇒組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

### ・NPO 活動分析・アドバイス等支援事業

内容：NPO からの依頼を受けて、年間を通して活動の分析・アドバイス等を行う。

### ・災害時連携NPO等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

**活動趣旨** ..... 近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図る。

**活動内容** ..... 趣旨を理解していただき、市民や団体に参加を呼びかける

※ 「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図るため、会議への参加

※ 京都北部独自の取り組み

### ・その他支援事業

- Web ページ及び Facebook ページによるNPO等向け情報発信
- NPO 法改正に伴う支援
- 助成金・給付金等申請・報告支援
- 会計・収支報告等支援
- マネジメント支援
- 人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり
- 必要な情報の多言語化(多言語化の要請)

## ③情報発信支援事業(収益事業)

### 1 事業の趣旨・特徴

#### 事業への想い

地域(企業)情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

#### 事業背景

##### 【京都北部の課題と事業の背景】

京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPO にあっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしている、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

### 2 事業の概要等

#### ●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

- HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につながるよう、①コンテンツの内容(何を誰に何のために発信したいのかなど) ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFB ページ、ちらし等を作成
- 企業や活動団体の要望に応じた SNS 等講座を実施(生成 AI のテーマ別活用等)

#### ●継続中の事業及び新規事業予定

- ①舞鶴市ホームページ保守契約(年間 120,000 円) ②井上株式会社ホームページ保守契約(年間 105,600 円程度) ③あやべ特産館 絵葉書販売など

## ④たんたんフードバンク事業(見守り・傾聴・支援)

---

予算: キリンこども応援団 **1,200,000 円** 応募予定

協力企業等: 株式会社さとう、特定非営利活動法人おてらおやつクラブ、NPO 法人チャリティーサンタ、きょうとフードセンター、福知山市社協など

### 1 事業の趣旨・特徴

#### 事業への思い・背景

物価高騰(特に米の高騰)により、経済的支援の必要な家庭や孤立を防ぐ必要のある人が増えており、食糧支援だけでなく、当事者のニーズと支援をつなぐ事業に発展させていく必要性がある。また、子ども食堂やフリースクールなどの団体と連携し、寄付物品の活用をさらに充実したものにする。

### 2 事業の概要等

- ・ 目的: 食料支援を通して、傾聴・見守りを行い、それぞれが抱える問題・困りごと等を引き出し、支援につなげる
- ・ 目標: どのような課題にも対応できるよう連携先をふやすこと 支援者側のスキルアップ
- ・ 支援対象者(個人): ①外国籍・外国にルーツのある家庭 ②ひとり親家庭 ③子どもの多い家庭 ④失業中の人 ⑤その他一人暮らしの大学生・高齢者等のうち、生活が厳しい家庭
- ・ 支援・連携団体: 子ども食堂、フリースクール、母子寡婦福祉会、民生委員など
- ・ 寄附の公募方法: 当 NPO のホームページ、SNS など
- ・ 配布希望の受付: 当 NPO のホームページ、電話、相談のあった家庭など
- ・ 配布方法: ボランティア、アルバイトの他、連携団体

特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワークホームページアドレス

<http://kyoto-tantan.net/>

<http://kyoto-tantan.net/foodbank/> (フードバンク・フードパントリーページ)

## ⑤多文化共生とまちづくり

予算:①外国労働者と企業・行政の共創型多文化共生社会の構築のための実態調査事業 1,730,000 円  
③ろうきん(笑顔プラス)寄附金 800,000 円+α 予定

### 1 事業の趣旨・特徴

#### 事業への思い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。

特に外国人や世代・立場の違う者が交流する場を持つことはとても難しい。

そういった場を創出することで、孤立する人を減らし、誰もが暮らしやすい地域をつくるために、すべての人が自分ごととして未来のまちづくりを考え行動する地域にしていきたい。そのためにはまず、外国人への意識・状況等実態調査を実施し、今後の支援の方向性を見極める必要がある。

### 2 事業の概要等

#### ●共創に繋げるための実態調査

##### 【概要】

- ・ 外国人市民・労働者・外国人雇用企業等への調査(生活・就労・社会参加の状況など)

#### ●外国人及び外国にルーツのある人達への支援

##### 【概要】

- ・ 見守り・傾聴及び食料等の支援
- ・ 交流の場づくり
- ・ 情報の支援と多言語化
- ・ 外国ルーツの人たちが抱える課題の可視化と解決方法の模索

#### ●まちづくりとしての多文化共生

##### 【概要】

- ・ 多様な人々との交流
- ・ 外国人を雇用する企業との連携
- ・ 専門家を交えたまちづくりの方向性
- ・ 多様な組織(行政機関・学校・他の支援団体等)との連携

#### ●「たんたん×交差点」まちづくり講座&交流

【概要】まちづくりに関するテーマを設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半は参加者で食事を取りながら交流。状況に応じてオンライン講座等に対応。

●市民・活動団体等のための各種講座

【概要】 高齢者のための生成 AI 講座などを予定

## ⑥防災支援及び

### モデル避難所拠点づくり・運営・訓練実施事業

予算:真如苑 防災・減災助成 (仮)生成 AIを使った合理的避難所システム構築事業(2026年8月～2027年7月)500,000円 応募予定

#### 1 事業の趣旨・特徴

##### 事業背景及び必要性

京都北部では毎年のように自然災害が発生し、避難勧告・避難指示が出されることも頻繁にあり、避難される方の中には介護が必要な高齢者や障害者、外国人などが含まれる。日常的にその人たちを支援するNPOも存在するが、災害時にはそれらのNPOも被災する可能性があり、復興できなければ時には命にかかわるようなケースも出てくる。そこで、災害が起きても事業・業務を継続し、NPOと地域が連携する仕組みを双方が作っておくことにより、災害発生後の地域コミュニティの継続、再生につながる。

一方、防災意識には個人差が大きく、意識の低い者にまずは興味を持ってもらうことが必要であり、そのような仕組みづくりも大きな課題の一つである。

(目的)避難所自体は行政が設置するにしても、その運営は地域の人やボランティアが担う必要があり、高齢者や子ども、障害を持つ人等誰もが安心・安全に避難できる場として避難所を運営するために、多様な人が興味を持って参加してもらえるような機会を作っていくことを目的とする。

#### 2 事業の概要等

##### 生成 AI を活用した『多文化多世代共生・避難所設営支援システム』の構築事業

- 外国人を含む災害弱者に配慮したゾーニング
- ピクトグラムによる視覚的情報共有の進化
- 宗教や障害、高齢に配慮した食事の提供と案内

##### 【概要】

実際の避難場所を想定したシステムの構築と試行

##### つながる防災支援

- 高齢者の多い地域や外国人がいる地域など状況に応じた防災支援の実施

##### 【概要】

住民などが楽しみながら学べる防災のアドバイスや研修の実施→防災食づくり、まちあるきマップ、ゲームを使った防災研修など

## NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

### 会員・寄付金

正会員(1口 1,000 円) 14 名

寄附目標 1,000,000 円

### 役員体制

戦略的役員会(理事会、執行理事会など)を年数回開催することにより、それぞれの事業をより質の高いものとして、他機関などとの連携も進めていく。

### 事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして4名体制で活動。必要あるときはアルバイトを雇用又は他の理事・会員に呼びかけ、もしくはボランティアを募集する。

<新体制の組織図イメージ>

